

### □朝比奈主筆は米国コケ類学会の名誉会員に選ばれた

The American Bryological Society は朝比奈泰彦博士の地衣類の分類と化学に対する顕著な貢献を考慮して、1964 年 11 月博士を同会の名誉会員に選出した。

### ○ビルマの植物学界の一端 (金井弘夫) Hiroo KANAI: Recent botanical activity in Burma

1964 年 1 月に 1 週間ほどビルマの Rangoon と Mandalay を訪問する機会があったので、その間に知り得たことを記しておく。

まず Forest Department には小さな Herbarium がある。主任は Maung Gale 氏である。同氏の話によるとビルマには植物学会は組織されておらず、従って学会誌もない。Forest Department の Bulletin は年 2 回発行されている。ビルマで最近活躍している植物分類学者は Rangoon University の D.M. Nath 氏で、1960 年にシャン高原のフロラを発表している。同大学には同氏のコレクションを主とした大きい Herbarium がある。私は時間の関係で Nath 氏には会うことができなかった。なお聞くとところによると、Rangoon University は革命政府の命令で閉鎖されているという。

Mandalay University には大きい Agricultural Herbarium があるというので行ってみたが、第 2 次大戦のためすっかり焼けてしまったと聞かされた。

Mandalay から西へ自動車で半日ほどの所にシャン高原の避暑地 Maymyo があり、そこに Shan State の State Botanic Garden がある。園内は広々としていてよく整頓されているが、樹木はまだ植えかけのものが多かった。ここはシイ・カシ類の自然林とゆるい丘陵地形を利用したもので、*Prunus cerasoides* や *Quercus acutissima* のようなヒマラヤ帰りにはなつかしい樹木も見られた。通りすがりの印象としては、ビルマの植物分類学はインドの直接の影響の下にあるように感じられた。

滞在中に知った人の住所および出版物は次の通りである。

Maung Gale—Silviculturist, Burma Forest Service, 526 Merchant Street, Rangoon.

Dewan Mohinder Nath—Lecturer in Botany and Curator of the Herbarium of the University of Rangoon.

Nath, D.M.: Botanical Survey of the Southern Shan States. Burma Research Society, Fiftieth Anniversary Publications No. 1: 157-418 (1961).

128 頁にわたる管束植物のチェックリスト、土名と学名の索引、Inle Lake の植生 6 頁を含んでいる。

Nath, D.M.: Floral Diagrams, Median Longitudinal Sections and Floral For-